

数学科 中学校 2年

単元名 資料の活用（確率）

本時の流れ（第1時）

本時の目標の確認

2枚の硬貨を同時に投げたときの硬貨の表裏の出かたを考えさせる。

ワークシート
はこちら

CLICK

各自で硬貨を30回投げて結果を記録させる。
ワークシート（1）

クラス全員の結果を集計し「1枚は表で1枚は裏」の出る割合を求めグラフを書かせる。
ワークシート（2）～（4）

投げた回数が少ないときと多いときでは、割合にどのような違いがあるかを考察し、グループで交流することで確率について理解させる。
ワークシート（5）

この実験から「2枚とも表」や「2枚とも裏」の出る確率の意味を考えさせ、深めさせる。
ワークシート（6）・（7）

学習のまとめ
本時の振り返りと次時の予告をする。

本時の目標

○多数回の試行の結果を整理することで、事象の起こりやすさの割合が安定した値をとることに気づき、確率の意味を理解する。

「2枚とも表」「1枚は表で1枚は裏」「2枚とも裏」の3通り。

【ワークシート（1）～（4）】

2枚の硬貨を投げる実験を一人30回おこない、30回分の合計結果を黒板に記入させる。30人でこれをおこなうと900回分の結果が集まる。結果から割合を求め、グラフに記入する。

【ワークシート（5）】

投げた回数が少ないうちは割合のばらつきが大きい、回数が多くなるとばらつきが小さくなり、期待される割合に近づくことを理解させる。そして期待される割合を「確率」ということを理解させる。

【ワークシート（6）・（7）】

できるだけ多くのデータ（クラス全員の集計）を使うことや、数字から「2枚とも表」や「2枚とも裏」が出る割合は、「1枚は表で1枚は裏」の出る割合の半分になっていること、すべての割合を足すと1になることに気付かせる。

「活用の力」を育てる評価の視点

説明し、伝え合う活動を通して、資料の捉え方や確率の考え方について理解を深める。

HOME

単元の流れへ